

記事を読んで問いに答えなさい。

## 浜松大空襲 あす75年

太平洋戦争末期に1157人が亡くなった1945（昭和20）年6月の浜松大空襲から18日で75年を迎える。陸軍の飛行場があり、軍需工場も多かった浜松は何度も米軍の空襲に見舞われた。浜松一中（現・浜松北高）3年で動員学徒として市内の飛行機部品工場などで働いていた鈴木幹さん（91）、遠藤隆久さん（90）＝いずれも浜松市中区＝は「恐怖より、もはやあきらめの気持ちが強かった」と当時を思い起こす。



浜松大空襲のあった1945年6月18日、遠藤隆久さんが寝ていた部屋。飛び起きて学生服に着替え、防空壕へ逃げ込んだ＝6月上旬、浜松市中区中沢町

浜松市戦災遺族会は市内の小中学校などからの要望に応じ、戦争の体験者やその子息らによる「語り部」を派遣している。ただ、体験者の高齢化が進んでいるほか、依頼件数も減少傾向という。語り部の一人、伊藤フジ子さん（92）＝浜松市中区＝は、浜松大空襲で母親とまよだいの5人を亡くした。「みんなに伝えたいけれど、長年活動してないが、今年はずっと、家族との死に別れはつらい。忘れられるわけがない」と75年を経ても変わらぬ思いを語っている。

**Q** 浜松大空襲 浜松市立中央図書館が発行した戦災資料などによると、浜松は太平洋戦争末期の1944年12月13日から45年8月1日にかけて計27回の空襲や艦砲射撃を受けた。最も被害が大きかったのが6月18日未明の浜松大空襲で、米軍の大型爆撃機B29約80機が市のほぼ全域に焼夷弾約6万5000発を投下した。市民ら1157人が死亡。木造家屋など約1万6000戸が全壊した。死者数を1717人とする消防の調査資料も残っている。

（浜松総局・土屋咲花）

## 焼夷弾容赦なく 一夜で焦土に

### 体験者鈴木さん、遠藤さん 防空壕の記憶鮮明

#### 戦災語り部年々減少

浜松市戦災遺族会は市内の小中学校などからの要望に応じ、戦争の体験者やその子息らによる「語り部」を派遣している。ただ、体験者の高齢化が進んでいるほか、依頼件数も減少傾向という。語り部の一人、伊藤フジ子さん（92）＝浜松市中区＝は、浜松大空襲で母親とまよだいの5人を亡くした。「みんなに伝えたいけれど、長年活動してないが、今年はずっと、家族との死に別れはつらい。忘れられるわけがない」と75年を経ても変わらぬ思いを語っている。

2020年6月17日朝刊

① 1945年6月18日に浜松大空襲があったが、米軍の爆撃機B29から投下される焼夷弾から逃げる手段として、当時どのようなことがあったのか。記事から読み取って答えなさい。

② 1945年6月20日には、静岡県内の別の都市が米軍の爆撃機から大空襲にあっている。この都市とは、どこか。

③ 太平洋戦争が行われていた時代の日本では、軍国主義と言われる考え方が当時の学生たちにも大きな影響を与えていた。どのような影響を与えていたのか。記事から読み取って答えなさい。

④ 現在、太平洋戦争などの戦争の記憶を後世に引き継いでいけるのかどうか、さまざまな問題がある。戦争の記憶を後世に引き継ぐ中での問題点を、記事から読み取ってまとめなさい。

## 年 組 名前

記事を読んで問いに答えなさい。

## 浜松大空襲 あす75年

太平洋戦争末期に1157人が亡くなった1945（昭和20）年6月の浜松大空襲から18日で75年を迎える。陸軍の飛行場があり、軍需工場も多かった浜松は何度も米軍の空襲に見舞われた。浜松一中（現・浜松北高）3年で動員学徒として市内の飛行機部品工場などで働いていた鈴木幹さん（91）、遠藤隆久さん（90）＝いずれも浜松市中区＝は「恐怖より、もはやあきらめの気持ちが強かった」と当時を思い起こす。



浜松大空襲のあった1945年6月18日、遠藤隆久さんが寝ていた部屋。飛び起きた学生服に着替え、防空壕へ逃げ込んだ＝6月上旬、浜松市中区中沢町

浜松市戦災遺族会は市内の小中学校などからの要望に応じ、戦争の体験者やその子息らによる「語り部」を派遣している。ただ、体験者の高齢化が進んでいるほか、依頼件数も減少傾向という。語り部の一人、伊熊フジ子さん（92）＝浜松市中区＝は、浜松大空襲で母親ときょうだいの5人を亡くした。「みんなに伝えたいけれど、長年活動してきいて、今年はずっとも、家族との死に別れはつらい。忘れられるわけがない」と75年を経ても変わらぬ思いを語っている。

**Q** 浜松大空襲 浜松市立中央図書館が発行した戦災史料などによると、浜松は太平洋戦争末期の1944年12月13日から45年8月1日にかけて計27回の空襲や艦砲射撃を受けた。最も被害が大きかったのが6月18日未明の浜松大空襲で、米軍の大型爆撃機B29約80機が市のほぼ全域に焼夷弾約6万5000発を投下した。市民ら1157人が死亡。木造家屋など約1万6000戸が全壊した。死者数を1717人とする消防の調査資料も残っている。

「花火のまじりに無数路地をさきだため、に降り注いだ。夜が明けると、自宅から約3分先の浜松駅の方まで全てが燃えたのを知った。焼け焦げた松葉百貨店を除いて建物は見えない。変わらぬ街の様子に、ぼろぼろと泣いた。遠藤さんは戦争一色の時代を「将来の夢を覚ました。またか。は軍人と言わなければならぬ空襲警報で、がいつもより低く、大空襲強どころか何もできなかった。簡状の焼夷弾が空で分裂し、は戦後、薬関係の会社を起し、高踏的に戦災を免れた家にも暮らす。周辺的光景は変わったが、庭先に掘った防空壕や焼け野原の記憶は鮮明だ。自分の人生は戦後から始まった。戦争のない平和がどなたかありたいところか」とかみしめる。

（浜松総局・土屋咲花）

## 焼夷弾容赦なく 一夜で焦土に

### 体験者鈴木さん、遠藤さん 防空壕の記憶鮮明

#### 戦災語り部年々減少

45年6月18日午前1時、木の手がみん燃え上がり、火の手が路地をさきだため、に降り注いだ。夜が明けると、自宅から約3分先の浜松駅の方まで全てが燃えたのを知った。焼け焦げた松葉百貨店を除いて建物は見えない。変わらぬ街の様子に、ぼろぼろと泣いた。遠藤さんは戦争一色の時代を「将来の夢を覚ました。またか。は軍人と言わなければならぬ空襲警報で、がいつもより低く、大空襲強どころか何もできなかった。簡状の焼夷弾が空で分裂し、は戦後、薬関係の会社を起し、高踏的に戦災を免れた家にも暮らす。周辺的光景は変わったが、庭先に掘った防空壕や焼け野原の記憶は鮮明だ。自分の人生は戦後から始まった。戦争のない平和がどなたかありたいところか」とかみしめる。

2020年6月17日朝刊

- ① 1945年6月18日に浜松大空襲があったが、米軍の爆撃機B29から投下される焼夷弾から逃げる手段として、当時どのようなことがあったのか。記事から読み取って答えなさい。

〔例〕防空壕に逃げ込むこと。

- ② 1945年6月20日には、静岡県内の別の都市が米軍の爆撃機から大空襲にあっている。この都市とは、どこか。

〔静岡市〕

- ③ 太平洋戦争が行われていた時代の日本では、軍国主義と言われる考え方が当時の学生たちにも大きな影響を与えていた。どのような影響を与えていたのか。記事から読み取って答えなさい。

〔例〕学生の中で将来の夢は軍人と言わなければならない雰囲気があったり、動員学徒として飛行機の部品工場などで働かなければならなかったこと。

- ④ 現在、太平洋戦争などの戦争の記憶を後世に引き継いでいけるのかどうか、さまざまな問題がある。戦争の記憶を後世に引き継ぐ中での問題点を、記事から読み取ってまとめなさい。

〔例〕戦争の体験者が高齢化し、戦災の語り部が年々減少していること。

解答例

年 組 名前